

5. 高設棚を用いたイチゴ疫病菌による汚染の防止効果（情報）			
[要約] イチゴの親株と苗を高設棚で管理すると、ポット培土の疫病菌による汚染が防止できる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

疫病菌の汚染圃場では、雨水や灌水で跳ね上がる土壌とともに疫病菌がイチゴの親株や苗の培土が汚染することで被害が拡大する。そこで、親株と苗を高設棚、床面のアグリシート被覆及び雨よけで栽培することによる汚染拡大の抑制効果を明らかにする。

[成果の概要・特徴]

1. 疫病の汚染圃場において、イチゴの親株と苗を高設棚で管理したところ、ポット培土への疫病菌の汚染の拡大は認められなかった（表1）。
2. 汚染圃場の床面をアグリシート（日本ワイドクロス社製）でマルチして親株と苗を管理すると、汚染圃場に直接置いて育苗した場合よりも汚染ポット率が低かった（表2）。
3. 汚染圃場に直接ポット苗を置いて育苗した場合、露地よりも雨よけの方が汚染ポット率は低い傾向であった。（表3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 可能な限り、疫病菌の汚染圃場での栽培は避ける。
2. 資材や水は汚染のおそれのないものを使用する。

[具体的データ]

表 1 イチゴ疫病に対する高設棚の効果^z

処理	汚染ポット率 (%)				平均
	1 区	2 区	3 区	4 区	
高設棚	0	0	0	0	0
床面上	58	27	57	19	40.3

注) 各区100ポット調査 (50ポット×2反復)

^z 金網型の高設棚(高さ80cm) にプランター定植した親株を置いて採苗、育苗管理を実施した

表 2 イチゴ疫病に対するアグリシート被覆の効果^z

マルチの有無	汚染ポット率 (%)		
	1 区	2 区	平均
有	27	19	23.0
無	58	57	57.5

注) 各区100ポット調査 (50ポット×2反復)

^z アグリシートを用いた

表 3 イチゴ疫病に対する雨よけの効果

雨除けの有無	汚染ポット率 (%)		
	1 区	2 区	平均
有	57	19	38.0
無	58	27	42.5

注) 各区100ポット調査 (50ポット×2反復)

注)汚染ポットの判定法;ポットの培土約 20g を直径 20mm の試験管の中で 50ml の蒸留水と懸濁した後、1cm 角の棒状(長さ 5cm) に切断したナス果実を試験管内に収めた。そして、25℃で7日間静置し、果実の水面付近の腐敗部における遊走子のうの形成の有無を調査し、遊走子のうの形成が確認されたポットを汚染ポットと判定した。

[その他]

試験研究課題・事業名：イチゴに発生する疫病などの生態解明と環境負荷の低い防除体系の開発

予算区分：交付金(病害虫防除農薬環境リスク低減技術確立)

研究期間：平成 15～17 年度